

第6回 「国際人口開発会議行動計画」 実施のための国際国会議員会議（IPCI/ICPD）

4月23～25日 スウェーデン・ストックホルム



写真：AFPPD FACE BOOK より

7月8日、アンネ・ビルギッテ アルブレクトセン国連人口基金（UNFPA）事務局次長、ダイアン・スチュワート UNFPA-IERD 局長の来日にあわせ、JFPF 国際協力部会を開催しました。2年前のトルコに続き、今回で6回目を数える「国際人口開発会議行動計画実施のための国際国会議員会議（IPCI/ICPD）」がスウェーデン・ストックホルムで開催されました。

スウェーデン国会、ヨーロッパ人口・開発議員連盟（EPF）主催、各地域議連共催、国連人口基金（UNFPA）およびEPFを事務局として開催されたこの会議に、日本から、生方幸夫 JFPF 副会長、武見敬三 JFPF 幹事長／人口と開発に関するアジア議員フォーラム（AFPPD）議長、牧島かれん JFPF 女性問題副会長が参加し、IPCI と日本の貢献、人口問題に対する日本の強いコミットメントを世界に示しました。今回は、会議3日目に発表された武見敬三議員の発表要旨をご紹介します。

発表要旨

2000年のミレニアム開発目標（MDGs）は、コフィ・アナン国連事務総長の下で起案され、国連総会において全会一致で採択された。その起草にあたって国際人口開発会議行動計画（ICPD PoA）は、母親・子どもに焦点を当て、MDGs4、5を導入する上で大きな影響力を持った。

しかし、その後、MDGsが国際社会で資金配分に大きな影響を持ち始めたために、今回は、まったく異なるグローバルな政策決定過程となった。多くの国連機関、NGOsが国際資金を獲得するためにあちこちで会議を主催し、新しい国際開発アジェンダを構築するうえでの厳しい競合が進行中である。

議員の役割の一つは、MDGs4、5が達成されていない現在、MDGsを引き継ぐ新しい国際開発アジェンダにおいても、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを含む分野に優先順位を置き、政治的モメンタムをあげるべく、その推進力としての役割を担う事である。IPCIの会合は、まさに、その為のグローバル・レベルでの政治的モメンタムを強化する場となっている。



写真：IPCI ホームページより

国会議員の役割は、同時に、自分を選んでくれた選挙民の関心と利益の中から、国境を超えた新しい共通の課題を見つけ出すことである。この役割から、先進高齢社会であり、人口減少社会となった日本も、自らの経験からライフサイクルに着目した。

ライフサイクルの最初の段階がリプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題であり、後半が高齢化である。高齢化の進展の中で、平均寿命を

延ばすことよりも健康寿命を延ばすことの重要性が増大し、平均寿命とのギャップ増大を抑制することが重要となる。そして、ライフステージの各段階でどの様な健康への投資をすれば健康寿命を延伸させることが出来るかを考える必要が増大している。

最後に、健康な高齢者には継続して働く場所を提供し、経済的にも活力のある健康長寿社会を実現し、高齢化においても若者世代の負担をなるべく増やさない社会の実現が大きな目標となってくる。

1994年のカイロ国際人口開発会議（ICPD）から20年、大きな進捗が見られましたが、「すべての人がリプロダクティブ・ヘルスを利用できるようになること」、「妊産婦死亡の低減」、「女性の地位」などの分野でまだ目標が達成されていません。高齢化などの新たな課題が世界的にも重要になってきている今、ICPDの成果と残された課題、そして新しい課題を見据えた包括的な取り組みが求められています。